

三木地区市政懇談会 議事録

- 1 日 時 平成30年10月26日
午後7時30分～9時00分
- 2 場 所 中央公民館4階大ホール
- 3 参加者 三木地区 33人
市 24人（市長、副市長、副市長、教育長、総合政策部長、総務部長、市民生活部長、健康福祉部長、産業振興部長、都市整備部長、上下水道部長、議会事務局長、消防長、教育総務部長、教育振興部長、危機管理課長、企画政策課長、生活環境課長、商工振興課長、道路河川課長、プロジェクト推進課長、交通政策課長、教育施設課長、学校教育課長）
オブザーバー 3人
傍聴者 2人

4 内 容

(1) 地区からの意見・提言及び市からの回答
別紙のとおり

(2) 意見交換

ア 災害時の対応について

【三木地区】

美囊川右岸の避難所として三木中学校と市民活動センターがある。また、福祉施設としては、デイホームほの華、さつき園、大村病院、みずきがあり、要援護者も多い状況である。三木地区のデイサービスセンターは、土砂崩れ地域にあるため避難所に指定されていない。災害が発生したときは要援護者を区長協議会が誘導することとしているが、三木中学校や市民活動センターに要援護者を避難させても対応できる人がいない。三木南デイサービスセンターで要介護度の高い人を受け入れていただきたい。役割分担として、要介護度の低い人は区長協議会で対応し、要介護度の高い人は市で対応していただきたい。

【健康福祉部長】

三木北デイサービスセンターは土砂災害警戒区域に、三木

南デイサービスセンターは河川浸水地域にあるため、避難者の受け入れはできない。カトレア及び三木東デイサービスセンターを福祉避難所としており、自主避難の段階から受入れを行っている。また、民生委員が日頃の見守り活動の中で、避難の際に車いすやストレッチャーが必要な方を把握している。要援護者の避難については、民生委員が避難する方を把握し、これを市福祉課に連絡いただき、社会福祉協議会又は市福祉課の車により福祉避難所に避難している状況である。福祉避難所における要援護者の収容人員に限りがあるため、民生委員から避難者の状況をお聴きしながら、避難の支援を行っている。必要があれば、他地区の志染デイサービスセンター、細川デイサービスセンター、しゅうらく苑にもご協力いただいで対応している。なお、自主避難所の開設は広報しているが、福祉避難所については広報していない。これは、熊本地震の際に福祉避難所の開設を広報した結果、一般の方が避難に来られ、要援護者を受け入れることができない状況となったことが理由であり、全国的にそのような運用となっている。要援護者の避難については、民生委員と連携を取り、市福祉課に連絡いただければ、市が対応していく。

【三木地区】

台風20号の際には、市の車がないとのことで対応してもらえなかった。市が対応するということが民生委員に伝わっていないのではないかと。民生委員からも市の車がないため自治会で対応してくださいと言われた。

【健康福祉部長】

民生委員については、民生委員の定例会議において、福祉避難所への避難の際には市福祉課に連絡いただくことをしっかり説明している。ただし、社会福祉協議会には多くの車があるわけではないため、場合によっては市が協力したり、ご家族の方の協力で避難いただいている。

【三木地区】

要援護者で避難の協力を市にお願いする方は、家族がいない方になる。自治会では要援護者の名簿も年に1回しかもらえず、福祉避難所に避難する人とそうでない人の仕分けができていないように思う。

【健康福祉部長】

要援護者の情報については、くらしあんしんシートを作成し、支援者、支援方法の内容について取りまとめている。原則は、民生委員を通じて福祉避難所への避難の連絡があるが、家族がいない場合などでケアマネージャーから連絡がある場合がある。そのような場合における区長や民生委員との情報共有をはじめ、区長、民生委員、市福祉課相互の連携を一層図っていく。また、民生委員に対しても福祉避難所への避難の際の留意事項などについて再度周知していく。

イ 神戸電鉄三木駅再開発について・神戸電鉄粟生線存続について

【三木地区】

神戸電鉄三木駅前にロータリーを整備するということが、どのようなロータリーを整備するのか。また、近隣の土地の買収は行うのか。

【都市整備部長】

現在、用地買収の交渉中である。

【三木地区】

ロータリーを片側に整備するのであれば、踏切を渡らずに両方の改札に行けるようにしないと意味がない。また、例えば喫茶スペースやベンチを置くなど、電車が来るまでの時間を過ごせるような設備も設けていただきたい。

【都市整備部長】

ロータリーは下りホーム側に整備する計画である。そのため、上りホームに行くには踏切を渡る必要がある。以前は、改札が1つで、駅の構内の踏切で上下線のホームを行き来できた。しかしながら、電車が4両での運行となった際に、踏切が危険であるため撤去され、上りホーム側の改札が設置されたと聞いている。そのような経緯があることから、構内の踏切設置は難しく、現在の踏切を渡っていただきたい。駅舎の整備については用地交渉及び設計の段階であるが、待合スペースも設けたいと考えている。

【三木地区】

三木駅周辺を三木市の玄関口としたいと考えているが、そ

のイメージにはなっていない。また、三木駅からでは市役所や図書館がどこにあるか分かりにくく、よく道を尋ねられる。観光協会は駅の近くにあるべきである。

【都市整備部長】

駅舎に待合スペースを設けたいと考えており、例えばそこに案内板を設置することは可能である。

【産業振興部長】

観光協会については、駅舎の規模が決まっていない中で、駅舎に移す話はしていない。

【三木地区】

従来のような三木駅として、単に駅舎を整備するだけでいいのか。また、住民にアンケートを行ったが、その結果も反映したものになっているのか。

【都市整備部長】

アンケートについては集計ができたところである。ロータリーのほか、ちょっとしたお店など駅へ寄っていただけのような工夫をしてもらいたいというご意見もあった。アンケートのご意見についてはできる部分とできない部分があるが、できるだけ反映させていきたい。

【三木地区】

ロータリーはどのようなものになるのか。

【都市整備部長】

送迎の車が止まり、乗降できるものとしたいと考えている。

【三木地区】

車を中心に考えているのか。

【都市整備部長】

歩道を整備することも考えている。

【三木地区】

市長は、三木駅の整備について、駅としての機能だけでなく周辺の活性化も含めたものにすると言っていたと記憶している。

【市 長】

その話については記憶が定かではないが、いずれにしても、どれくらいの規模の土地を確保できるのかによって変わってくる話である。また、駅舎に喫茶コーナーを整備すること

については、これからの検討ということになるが、例えば地域の有志の方やNPO等による運営など地元の協力もお願いしたい。

【三木地区】

神戸電鉄は、志染駅以西については10時から15時頃までは1時間に1本しか走っていない。1時間に2本走らせることはできないのか。

【都市整備部長】

通勤、通学の時間帯以外は1時間に1本となっている。神戸電鉄が利用者数に合わせて運行しており、この減便によって経費削減につながっていると聞いている。これが神戸電鉄を持続可能な公共交通としていく1つの方法であると考えている。

【三木地区】

車両を3両や4両で走らせなくても、昼間は1両でもいい。このままでは便利が悪く、利用者も乗らなくなってしまう。

【都市整備部長】

運行経費で大きい部分を占めるのが運転手の人件費である。車両を少なくすれば電気代は多少削減できるが、運転手は必ず1人必要であるので、人件費は変わらない。また、現在3両又は4両で走っているものを1両で走らせるとすれば改造が必要となり、莫大な経費がかかる。このようなご意見を含め、身の丈に応じた車両編成にできないかということを粟生線活性化協議会で伝えている。

【三木地区】

1時間に1本では乗りたくても乗れない。乗客は自然とバスに流れていっている。運賃もバスの方が安いというのに利便性も悪ければ、ますます神戸電鉄に乗る人は減っていく。逆に増便して利便性を高めてはどうか。住民が乗りやすいものにしていただきたい。

【都市整備部長】

減便により不便をおかけしていることは認識している。かつては1時間に4本運行していたが、団塊の世代のリタイアにより通勤に利用する方が減少した。鉄道は運賃収入で経営しており、乗客が減少すれば運行の見直しは必要である。し

たがって、現在のような運行形態をとっている。増便のご意見については神戸電鉄にお伝えしているが、増便することにより赤字が増えることもご理解いただきたい。

【三木地区】

猫の駅長のような他市の事例など市外から乗りに来てもらうアイデアも必要ではないか。三木の住民だけの利用では乗客が増える見込みがない。

【都市整備部長】

粟生線活性化協議会ではそのようなアイデアを実行するための協議を行っており、ブログ駅長や粟生線サポーターズくらぶなど神戸電鉄を利用してもらう取組を進めている。決して手をこまねいているわけではなく、地道な取組が持続可能な公共交通につながっていくという思いで取り組んでいる。

ウ 旧市街地の活性化について

【三木地区】

緑が丘や自由が丘などニュータウンができた頃は神戸電鉄も満員だったが、その方々が高齢になって通勤する人がいなくなった。今後ますます人口が減少するとともに、高齢化も進んでいく。昔、明盛街には映画館が2軒あったが、今はお店がほとんどなく、買い物もできない。車もいつまで乗れるのか不安である。75歳以上の方がほとんどの状況であり、その方が亡くなっても子どもが帰ってこないで、空き家が増えてしまう。旧市街地の活性化について、将来に希望が持てるような回答をいただけないか。まずは、買い物難民の問題について何とかできないか。以前にスーパーがオープンしたが、地域の要望をとらえたものになっておらず、スーパー側にとって都合のいいお店であった。現状に即していなかったため、長続きしなかった。住民のニーズをとらえていただき、買い物難民とならないような方策を示していただきたい。

【産業振興部長】

買い物難民の問題については十分承知している。十分な品ぞろえではないかもしれないが、夢ショップや夢ステーションなどの既存店を住民の方のご利用により支えていただき

たい。

【三木地区】

既存店の維持は困難ではないか。店の経営者が高齢となっており、今年になって店をやめられる方も増えている。現状にまかせていては店がなくなってしまう。市はそれでもいいのか。

【市長】

少子高齢化は全国的な問題である。国が示す人口推計では、2060年に三木市の人口は4万人になると言われている。これに対して、市としても対策をとる必要があると考えている。国による地方創生においては、1億2千万人の人口が8千万人に減少するところを1億人で食い止める計画である。三木市では、4万人まで減少するところを5万人で食い止める計画である。現在、2か年かけて総合計画を策定しており、さまざまな意見をいただきたい。また、スーパーがなくなったのは、住民がスーパーに行かなくなり、経営が成り立たなくなったからである。夢ショップや夢ステーションに生鮮食料品を置いてもらうなど、近隣の地区が集まって意見交換をしていただき、取りまとめた意見を要望として市も一緒にお伝えさせていただきたい。さらに、旧市街地について、救急車が入れないような道などもあり、住民の安全安心を守るため、密集市街地のあり方について考えていこうとしている。これについては土地の権利関係などもあるため、地域の方のご協力をお願いしたい。

エ 学校の安全について

【三木地区】

市全体で学校にカウンセラーを15人配置しているとのことだが、全小中学校で15人では対応できないのではないかと。カウンセラーが各学校に週1日いるだけの状況であり、友達の輪に入れられない子どもなどはカウンセラーのいる日しか学校に行かないということも聞いている。特に小学生の低学年をメインにもっと力を入れてほしい。例えば、各学校週1日はカウンセラーが勤務しているところを、週3日に増やしていただけないか。

【教育振興部長】

不登校傾向にある子どもは、保健室に行ったり、カウンセラーに相談に行ったりすることが多い。学校においては、カウンセラー以外にも教育活動支援員、養護教諭など、対応できる多様な職員を配置している。具体的なケースについては、個別に話をお聞きして対応したい。

【三木地区】

刃物を持った人が現れたなど不審者情報があったが、犯人が捕まったという情報は来ない。防犯カメラを設置したいと考えているが、地区で設置するには高額であるため、市で設置することはできないか。

【生活環境課長】

防犯カメラの設置については、県、市及び防犯協会の補助制度がある。設置する場所にもよるが、設置費用は補助金でまかなえる。来年度以降の県の制度については分かっていないが、市及び防犯協会の補助制度については当分は継続する予定である。地区でご検討いただき、生活環境課にご相談いただきたい。

【市 長】

防犯カメラは20万程度で設置できる。県、市、防犯協会で8万円ずつの補助金、合計24万円の補助により設置することができる。補助の基準等もあるため、生活環境課にご相談いただきたい。

【三木地区】

学校の敷地に防犯カメラを設置することは可能か。

【生活環境課長】

学校の敷地内に関しては、学校の管理者の承諾があれば設置は可能である。

オ 防災について

【三木地区】

自治会は避難準備情報が出たときに要援護者の対応をすることとなっているが、社会福祉協議会は避難準備情報が出る前から対応していた。実際、避難準備情報などが出ずに、自主避難所が開設されたときの取扱いが分かりにくい。

【健康福祉部長】

福祉避難所の社会福祉協議会職員については、気象警報が発令されれば待機している。

【三木地区】

自治会としては、要請があれば対応するが、避難準備情報が出ないと動いていない状況である。これでいいのか。

【危機管理課長】

要援護者の支援については、避難準備情報が出てから対応いただくことを考えている。自主避難の段階で自治会に積極的に動いていただくことは考えていない。

【三木地区】

台風 21 号の際には美嚙川の水位が氾濫危険水位ぐらいまで達していたが、夜だったので避難準備情報などは出されなかった。今後もそのような方針であるのか。

【危機管理課長】

夜間に避難準備情報などを出すことは難しい。市としては、できる限り夜間でなく、夕方か早朝に避難準備情報などを出すこととしている。夜間については、状況が急変するようなことがなければ、避難準備情報などは出さないように考えている。

カ 道路整備について

【三木地区】

道路に垂れ下がった木の剪定をしていただき感謝している。また、道路の白線も引き直していただきたい。白線を引き直すことによってまちが明るくなり、安全安心だけでなく、まちの美化にもつながる。

【市 長】

市としても白線は何とかしたいと考えており、引き続き警察に要望していく。

キ 郵便番号について

【三木地区】

府内町の郵便番号の指定の件については、企画政策課に相談すればよいのか。

【総合政策部長】

郵便局に確認したところ、要望いただければ検討するということであるため、企画政策課にご相談いただき、市も一緒に郵便局に要望していく。

【三木地区】

要望書を作成する必要があるのか。

【総合政策部長】

地域の意見として取りまとめていただきたい。

【三木地区】

郵便局に確認したが、市役所と話をしていただきたいとのことだった。

【企画政策課長】

この件については企画政策課が窓口となっているので、企画政策課にご相談いただければ、対応させていただきます。